



朝の時間帯、幼稚園の玄関前に到着したバスから「オハヨゴザイマス！」のあいさつと一緒に、色とりどりのカラフルな帽子たちが降りて来ます。毎年の事ながら6月からしばらくの期間の毎朝の光景です。

子どもたちの顔を見てクラスの見分けが難しくなった理事長の老化豆頭には、このカラー帽のシーズンは実にうれしいシーズンとなるのです♡

■「背の順お並び!!」「小さい前ならえ!!」「大きい前ならえ!!」「前から順番に体操すわり!!」これは、子どもたちへ教師が出す指示の一例です。大切な指示のひとつに「壁さん忍者!!」とあります。

してくるから出来た経験です。年少組のおひだちと、今や毎日少しづつその経験と積んでおりますよ。トイレに行く時も、ホールに行く時もクラスがひとつになって行きます。

キビキビしたクラスのおひだちは秋の運動会で観て確かめる事が出来ます。



「白ゆりは軍隊みたいだ!!」と言う悪評が他園から出てきます。でも続けてます。50年前の設立当時、屋外での活動で、子どもたちの安全を考え教師の指示にクラス全員がキビキビと反応をと考えた結果の指導方法です。

ある年、年長児たち平塚駅から地下鉄に乗り札幌駅まで映画館へ。テニール映画に涙して笑って来ました。教師の指示に、その都度「キバキ」と反応

■「壁さん忍者!!」と言う指示。これは白ゆりことばです。使いはじめて50年近くあります。この指示は、教室でも、廊下でも、ホールでも使い、園庭や公園でも使います。「壁に沿ってお並びなさい!!」と言う指示です。これはほんの一例ですが、集団生活に必要な躰(しりけ)なのです。

(心の育ちシリーズ)

マナー警察が居なくて良かった!

電車の中の携帯電話を「悪」と決めつける事が出来るだろうか。突然の電話に小声でしか早口で話しながら急いで切ろうとしているのがうかがえる人を見る。そういう人をマナー違反だと目くじらを立てる世の中にはしたくない。

ある電車の中で夫婦と思しき男女が言い争っている声が聞こえてきた。「電話した方がいいよ!」「いや、人の迷惑になる馬鹿着いてからでいいよ!」二人はこぼれ取りをくり返していた。感情が高ぶり次第に声が大きくなっていった。

「意識なくて耳は聞こえてる! 掛けなさいよ! お義父さん待ってるよ!」「電車の中だから掛けられないよ!」聞く気は無いが居合わせた乗客は状況が飲み込めた。夫の父親が危篤状態にあり、今病院で息を引き取ろうとしているのだ。

その夫婦の向かい側に座っていた女性が優しく声を掛けた。「電話した方がいいですよ」と。それを聞いた周りの乗客も次々と頷いた。みんなに背中を押され、男性は電話を掛けた。

「お袋! 親父の耳元にこの電話を置いてくれ! 親父! 親父が一生懸命働いてくれたから、俺たちは腹いっぱい飯が食えて少しは嬉しいと思いたかった。心配しないでいいから。本当に、本当にありがとう…」

必死に嗚咽を抑え、最後の言葉を贈る男性。居合わせた乗客全員が、彼の父親にその声が届いていること願う空気が車輦内に流れていた。

そこに「マナー警察」のような人が居なくて本当に良かった。